

1

助成金の意義とその活用

助成金とは？

団体が活動を行う際には、まず活動するための資金の確保が必要となります。

資金の財源の例としては、メンバーや会員が持ち寄った会費、地域の皆さんからの寄付金、バザーなどの収益活動による収入、公的な補助金や委託費などのほか、WAMや様々な助成財団などからの助成金などが考えられます。

ではこのうち、「助成金」とはどのような性格の資金なのでしょうか？
助成金とは、団体の特定の活動や事業を支援するために、審査などの手続きを経て提供されるお金と考える事ができます。通常、まとまった額の資金を、無償で受けることになり、新しい活動の立ち上げや新たな事業展開のためには、非常に有効な財源となります。

ただし、単に「お金がもらえる」ということではなく、申請から精算までの間の手続きに必要な努力は、決して簡単なものではありません。

当然、様々な団体が応募することで競争となるため、審査を突破する必要があります。

他の応募に競り勝って審査を通過するためには、単に募集しているテーマや申請の条件に合致しているだけでなく、その計画が秀でて有益な活動であり、地域や社会に大きなメリットをもたらすものであることが求められます。

また、WAMの助成金をはじめとして、いずれも公共性の高い資金であるために、厳正な取り扱いや明瞭な精算事務などが求められてきます。

特に、WAMの助成金は国庫補助によってまかなわれる公的な資金であるために、関係法令等により、一層適切な取り扱いが求められること

となります。

こうした大きな社会的責任や一定の制限は伴いますが、誠実に手続きを踏めば、助成金の利用は決して難しいものではありません。民間福祉活動を行うためには非常に強力な資金となります。

上手な助成金の活用を

助成金は新しい活動の立ち上げなどに、大変強力な財源となりますが、同じ事業に対して何年も継続して支援することは少ないといえます。これは、WAMの助成金をはじめ、ほとんどの助成金は限られた資金をより多くの団体に利用してもらいたいと考えているからです。

また、活動の多くの割合をきまった助成金などに長い間支えられていると、一定の事業を行うことが目的となってしまったり、新しいことに挑戦しようとする向上心や団体自身の主体性が薄れてしまったりしないとも限りません。

反対に、あてにしていた助成金の審査が通らなかった場合、財源の確保が難しくなり、事業を縮小したり、中断せざるを得ないということもあり得る事態です。

そこで助成金の活用を考える際は、助成金を利用した後の財源の手当てや事業の発展の方向性、あるいは審査が通らなかった際の代替りの財源をどのように確保するかなどについて、あらかじめ団体内でよく検討し、将来の明確なプランを立てておくことも非常に重要なことです。

この冊子などを参照していただきながら、活動の立ち上げや新たな展開に、上手に助成金をご活用ください。

